

## テーマ設定型まち歩きワークショップの可能性 —高岡市吉久における事例研究その 4—

準会員 ○ 重山 隼人\*  
 準会員 今泉 優希\*  
 準会員 栗原 稜\*  
 正会員 有原 千尋\*\*  
 正会員 藪谷 祐介\*\*\*  
 会員外 田邊 元\*\*\*

伝統的建造物 町並み 子育て  
 まちづくり 参加意識 コミュニティ

### 1. 研究の背景と目的

筆者らはこれまでに公学民が協働し、住民主体によるまちづくり活動の形成と担い手発掘に向けて連続ワークショップを企画・運営している。その第2回目として、テーマを設定したまち歩きを通して地域に眠る魅力の発見と整理を行うことを目的としたワークショップを開催した。前稿(その3)では、富山県高岡市吉久(以下、吉久)における良い点、改善点を整理するワークショップが地域住民のまちづくりへの参加意欲向上に寄与することを明らかにした。本稿ではテーマ設定型まち歩きワークショップを行うことで、どのような効果があるのかを検討し、その課題や可能性を示すことを目的とする。

### 2. 調査方法

第2回よっさまちづくり会議「歩こう、よっさ」を開催し、終了後に参加者全員(ファシリテーターを除く)に対してアンケート調査(匿名式)を行った(表1)。

### 3. 第2回よっさまちづくり会議「歩こう、よっさ」

#### 3-1 概要

第1回よっさまちづくり会議「知ろう、よっさ」で、かつては存在した「コミュニティの場」が減少している現状が明らかとなり、そのような場が必要であるという今後のまちづくりの方向性が徐々に明るみに出てきた。そこでインフラや環境整備など大規模な改善ではなく、まずは住民自らの力で取り組めるまちづくりに着手していくため、第1回で挙げられた意見の中から「コミュニティの場」と関連が深いと考えられる、「子供の遊び場」、「自然」、「憩いの場」という3つのまち歩きのテーマを設定した。開催日時は令和3年11月14日(日)13:30~16:00、場所は吉久全体と吉久公民館である。参加人数はファシリテーターを除き54名であった。ワークショップは前半の「テーマ設定型まち歩き」と後半の「まちの発見まとめ作業と発表」の二部構成であった。

#### 3-2 テーマ設定型まち歩き

各テーマで3つのエリアごとに合計9つのグループに分かれ、吉久のマップを持ってメモをとりながらまち歩

きを行った(写真1)。各グループは6,7人で構成した。参加者同士で会話を交えながら歩く姿も見られた。また学生がタブレット端末を持ち、参加者が気になったポイントを写真に撮りながら各コースを歩いた。

#### 3-3 まちの発見まとめ作業と発表

60分間のまち歩きの後、各グループで、まち歩きを通して得た発見や気づきを共有するグループワークを行った。学生が各グループのファシリテーターを務めた。参加者はそれぞれ付箋にアイデアを書き出し、それを発表しながら配布された用紙に貼り付け、場所や事象ごとにタイトルをつけながらまとめていった。また、まち歩き中に撮影した写真をプリントし、それを用紙に貼り付けるなどして各グループのまとめ資料を作成した(写真2)。45分間のまとめ作業の後、各グループの代表者が順番に話し合った内容を発表した。

表1 アンケート調査項目

アンケート項目	
属性	性別、年代、職業、居住地
イベント参加	参加動機(複数回答可)、満足度・その理由(記述式)、テーマを設定したまち歩きの評価・その理由(記述式)、新たな発見や気づき(記述式)、第1回まちづくり会議の参加状況
まちづくり活動	地域活動・まちづくり活動への参加状況、参加意識の変化、今後の吉久での参加意欲、吉久でやってみたい活動



写真1 テーマ設定型まち歩き

### 3-4 「歩こう、よっさ」マップの作成

イベント終了後、各グループのまとめ資料を集約させた「歩こう、よっさ」マップを作成した(図1)。このマップは「子供の遊び場」、「憩いの場」、「自然」それぞれのテーマで参加者が魅力を感じたスポットをマッピングしたものである。また、3テーマ全てが選ばれているスポットが12カ所あった。このマップはワークショップの成果物として印刷し、吉久の全住戸に配布した。

### 4. 調査報告

アンケートは47名(回収率87.0%)からの回答を得た。以下にその結果を示す。

#### 4-1 属性

属性についてのアンケート結果を表2に示す。

性別は「男性」が34名(72.3%)で、「女性」が13名(27.7%)であった。

年代で最も多かったのは「70代」の16名(34.0%)で、次いで「60代」、「50代」、「40代」がそれぞれ8名(17.0%)で、「30代」の5名(10.6%)と続いた。「20代」、「80代以上」は各1名(2.1%)であった。

居住している地域は「吉久地区内」が28名(59.5%)で、「吉久地区外の高岡市内」が13名(27.7%)、「高岡市外」からも6名(12.8%)いた。

#### 4-2 イベント参加

イベントへの参加動機(複数回答可)は「まち歩きに関心があったため」が17名で最も高く、次いで「立場的に参加したほうが良いため」、「町並み保全に関心があるため」がそれぞれ16名、「テーマに関心があったため」が15名、「まちづくり活動に参加したいため」が12名、「知り合いに誘われたため」が8名、「他の人との交流のため」が7名、「大学や学生が関わっているため」が4名、「その他」が4名であった(図2)。その他の意見として「子供と一緒に参加できるから」、「子連れ可のため」など子供が参加可能である点が動機となった意見も見られ、実際に、10代未満の子供を連れた親子3組の参加が確認できた。子供の参加人数は6名であった。

イベントの満足度については「非常に満足」が6名(12.8%)、「満足」が33名(70.2%)であった。「どちらともいえない」は7名(14.9%)いたものの、「不満」、「非常に不満」共に0名であった(図3)。その理由については、「発見・気づき」が5名で最も高く、次いで「交流」が4名、「非日常」が1名であった(表3)。

テーマを設定したまち歩きは設定しないまち歩きと比べて良いと思うかについては「良いと思う」が27名(57.4%)、「少し良いと思う」が6名(12.8%)であった。「どちらともいえない」が11名(23.4%)いたものの、「あまり良いと思わない」は1名(2.1%)、「全く良いと思わない」は0名であった(図4)。その理由については、「まちを見る視点の明確化」が11名で最も高

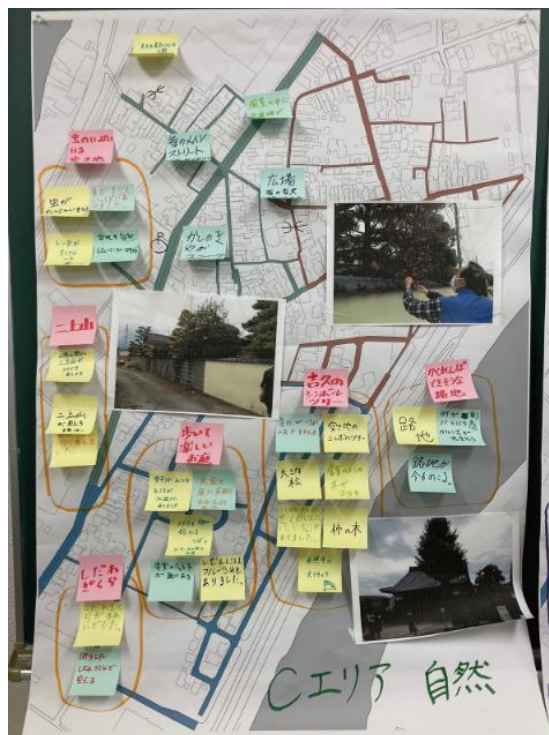


写真2 グループワークまとめ資料



図1 「歩こう、よっさ」マップ

表2 属性

カテゴリ	アンケート項目	n	%	カテゴリ	アンケート項目	n	%	
性別	男性	34	72.3%	職業	会社員	14	29.8%	
	女性	13	27.7%		公務員	5	10.6%	
年代	20代	1	2.1%		自営業	7	14.9%	
	30代	5	10.6%		主婦・無職	11	23.4%	
	40代	8	17.0%		パート・アルバイト	7	14.9%	
	50代	8	17.0%		その他	3	6.4%	
	60代	8	17.0%		居住地	吉久地区内	28	59.5%
	70代	16	34.0%			吉久地区外の高岡市内	13	27.7%
	80代以上	1	2.1%			高岡市外	6	12.8%

く、次いで「視点の制約」が2名であった(表4)。

新たな発見や気づきについては、「新たに知った場所」が5名で最も多く、次いで「地区外からの参加」が4名、「歴史」、「具体的な場所」、「歩き方」がそれぞれ3名であった(表5)。

第1回よっさまちづくり会議「知ろう、よっさ」への参加については「参加した」が31名(66.0%)で「参加していない」が15名(31.9%)であった(図5)。

### 4-3 まちづくり活動

まちづくり活動への参加状況については「企画・運営に携わっている」が15名(31.9%)で最も高く、次いで「たまに参加している」が14名(29.8%)、「よく参加している」が9名(19.1%)、「参加したことがない」が8名(17.0%)であった(図6)。

参加意識の変化については「高まった」が25名(53.2%)で最も高く、「とても高まった」が8名(17.0%)であった。「変わらない」が13名(27.7%)いたものの、「低くなった」、「とても低くなった」共に0名であった(図7)。

今後のイベントへの参加意欲については「参加したい」が28名(58.6%)で最も高く、次いで「どちらかというに参加したい」が9名(19.1%)であった。「どちらともいえない」も9名(19.1%)いたものの、「どちらかというに参加したくない」、「参加したくない」共に0名であった(図8)。

今後、吉久でやってみたい活動については、「町のこと」が5名で最も多く、次いで「空き家・空き地の活用」が4名、「外部との連携」が2名、「イベント」が1名であった。(表6)。

## 5. 運営者による振り返り

イベント終了後、運営者でテーマ設定型まち歩きワークショップの振り返りを行った。良い点として「タブレット端末で写真を撮りながら歩いたため、ブレイクタイムの際に役立った」や「参加者に子供から子育て世代の母親、高齢者まで様々な年代がいた」などが挙げられた。また、改善点として「3つのテーマを設けたが、テーマによってはイメージしにくく参加者の混乱を招いた」や「グループの中で歩く速度が変わり参加者同士で距離が空いてしまった」などが挙げられた。

## 6. 考察

### 6-1 子育て世代の参加

年代に関して、参加者は「60代以上」が53.1%とその半数を高齢者が占めた結果となった一方で、吉久に住む子育て世代(6.4%)の参加が見られた。子育て世代の参加動機で多かったのは「子供と一緒に参加できるから」であった。話し合いが中心であった第1回よっさまちづくり会議で子育て世代の参加が見られなかったことから、まち歩きという「子供」と一緒に参加できる内容であったことが、子育て世代の参加を促したと推察される。以

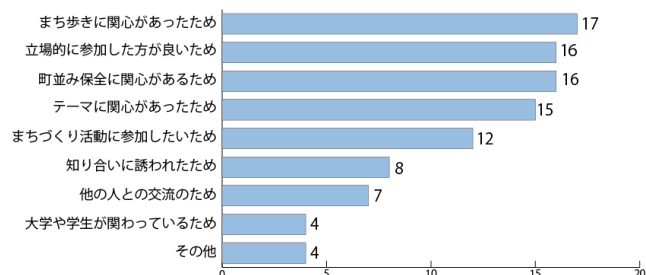


図2 イベントへの参加動機

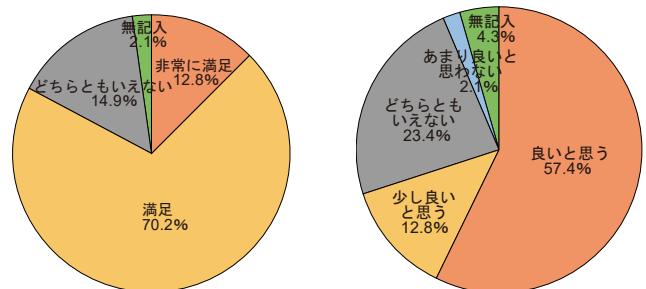


図3 イベントの満足度

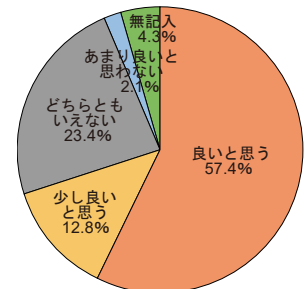


図4 テーマ設定型まち歩きの評価

表3 満足度の理由

満足度	記述の分類	自由記述(理由)
非常に満足・満足	発見・気づき	吉久の町並みの再発見ができた。
		新たな吉久を発見できた。
	交流	多くの気づきを得ることができた。
		面白い発見が色々あった。他の人の話が聞けて良かった。
非日常	普段気がつかないところに注目できたから。	
	日頃、交流していない方の意見が聞けた。新鮮でした。	
どちらともいえない	いろいろな人のいろんな見方、捉え方が見られたから。	
	来訪して歩いたのは3回目だったが、新しい発見が多くあった。	

表4 テーマ設定型まち歩きの評価理由

評価	記述の分類	自由記述(理由)
良いと思う・少し良いと思う	まちを見る視点の明確化	まち歩きの中で具体的にやるべきことが分かったから。
		具体的にテーマがあると「気づき」も増えると思います。
	その他	見え方が明確になる。
		ポイントが絞られて見る質が上がっていると思う。
どちらともいえない	視点の制約	テーマに沿って発見しようとして見ながら見るのでしっかり見れる。
		テーマに基づいて視点で見て回ることができた。

表5 新たな発見や気づき

新たに知った場所	初めて知った場所があった。
	知らない道があった。
	いつも歩かない所を歩いて新鮮だった。
地区外からの参加	20年住んでいるけど知らないところが沢山あった。
	新たに空地の多い事に感じました。
	吉久以外の人達の参加が良かった。
歴史	他所からの目が新鮮に感じた。
	毎日生活して当たり前のことが他地区の人の意見に気づかされた。
	私の住んでいる地域との違いと共通点。
具体的な場所	保存地区の周辺にも歴史があることを知った(鉄道駅や大橋など)。
	旧街道や治水のことなど新しい発見があった。
	第一(町内)の歴史など住民の方に教えていただいた。
歩き方	小路の魅力。
	堤防のポテンシャル、小矢部川側の景観。
	固まった広大な空き地(北東のすすきの群生地)可能性のある場所だと思う。

上よりまち歩きという方法が、子育て世代の参加を促す上で有効であると考えます。

### 6-2 まちづくり活動への関心を高める効果

まちづくり活動に「参加したことがない」と答えた回答者の75.0%のまちづくり活動への参加意識が高まっていた。また、「たまに参加している」と答えた回答者の64.3%のまちづくり活動への参加意識が高まっていた(図9)。このことから、まちづくり活動への参加頻度の低い参加者が参加意識を高めることにつながるイベントであったことがわかる。また、テーマ設定型まち歩きを「良い・少し良い」と思った回答者の81.8%のまちづくり活動への参加意識が高まっていた(図10)。よってテーマ設定型まち歩きがまちづくり活動への参加意識の向上に寄与した可能性が考えられる。

### 6-3 まちを見る新たな視点の提供

テーマ設定型まち歩きを良いと思う理由の中には、「テーマに沿って発見しようとしながら見るのでしっかり見られる」や「普段気がつかないことに注目できたから」というような「まちを見る視点の明確化」に関する内容が多く見られた。また、新たな発見や気づきの中で「吉久地区内にはまだ開発されていない遊び場や憩いの場で活用できる場所が多くて発展可能性がとても高いと思った」など、普段気がつかなかった場の新たな魅力を発見した参加者が多かった。これは特定のテーマを設定したまち歩きによって、住民自らが、意識下になかった場の新たな魅力を発見したと推察される。また、このような気づきが生まれたことは、吉久地域内外の交流や多様な世代の参加も寄与した可能性が考えられる。以上より、テーマ設定型まち歩きはまちを見る新たな視点を提供し、参加者の新たな気づき・発見を補助する効果があると考えられる。しかし、振り返りで挙げられたように、イメージしにくいテーマは参加者を混乱させる場合があるため、分かりやすいテーマを設定することが課題である。

## 7. まとめ

本研究では公学民が協働し、テーマ設定型まち歩きワークショップを行うことで、どのような効果があるのかをアンケート調査を用いて検討した。その結果、テーマ設定型まち歩きワークショップは参加者のまちづくり活動への関心を高め、まちを見る新しい視点を提供することがあることが明らかになった。加えて参加者の新たな気づき・発見を補助する可能性とその効果を示すことができた。今後は、参加者にとって分かりやすいテーマを設定することや、多様な世代が参加できる、このようなまち歩き活動を継続的に実施することで地域内の新たな住民層をまちづくり活動に取り入れることが課題である。

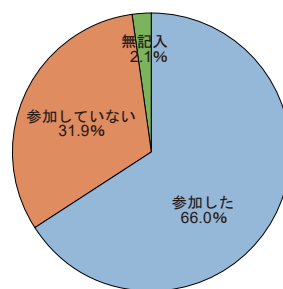


図5 第1回よっさまちづくり会議への参加状況

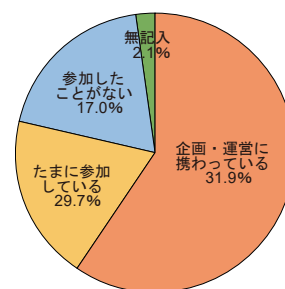


図6 まちづくり活動への参加状況

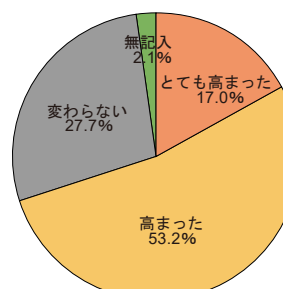


図7 参加意識の変化

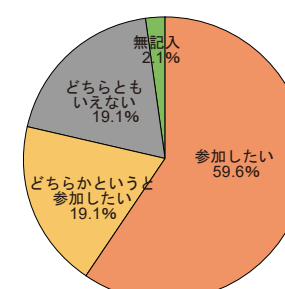


図8 今後のイベントへの参加意欲

表6 今後吉久でやってみたい地域活動

町のこと	見学者に対する案内ガイド所開設(トイレも)。 町並みの説明。 歴史をほりおこす。色々な世代ごとのイメージマップをつくる。
空き地 空き家の活用	よっさ通信の発刊。 皆様が安全安心に暮らすため、防災の視点が今後必要と思われます。 空き地とか多くあってもつたいないと思つた。 空き家を活用できる活動に参加してみたい。 空き家を活用したコミュニティスペースやトイレの適地調査。 空き家が多いので手芸教室や書道教室を開催して展示すればと思う。
外部との連携	万葉線と連携した企画・まちづくり活動。 他の重伝建との交流を図りたい。
イベント	イベントとしてのフォト(撮影会)大会をもよおす。

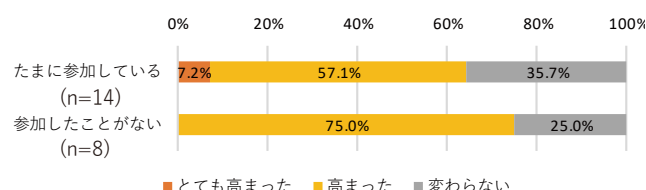


図9 まちづくり活動への参加状況別参加意識の変化

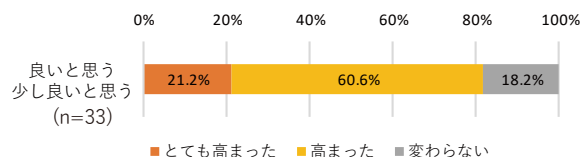


図10 テーマ設定型まち歩きの評価別参加意識の変化

\*富山大学芸術文化学部 学部長

\*\*富山大学大学院芸術文化科学研究科 大学院生

\*\*\*富山大学学術研究部芸術文化学系講師

Undergraduate, Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama  
Students, Graduate School of Art and Design, Univ. of Toyama  
Lecturer, Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama